

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表（平成28年度）

法人名	社会福祉法人 緑樹会	代表者	石井貴志	法人・事業所の特徴	当法人は、特別養護老人ホームの開設から始まり、介護保険、障がい者支援、医療と多岐にわたる施設・事業を有し、事業所内託児所も完備している。 「一人一人のために～この地で一粒の麦とならん」を法人の基本理念に、介護、障がい、医療分野、また、それぞれの職種が連携しながらサービス提供を行っている。 当事業所は、平成27年3月に開設され、「地域で最後まで暮らそう」を事業所理念とし、要介護・要支援高齢者が在宅で暮らし続けるために、生活の質・身体機能向上、家族の身体的・精神的介護負担の軽減に向けての支援を行っています。 要介護の状態になっても、今持っている能力を十分に生かし、さらに軽減に向けた自立支援介護に取り組んでいます。
事業所名	明山荘小規模多機能型居宅介護事業所	管理者	清水 毅		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	1人	2人	1人	0人	1人	0人	4人	人	10人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	○「事業所自己評価」における改善計画を確実に達成するため、定期的に職員会議で進捗状況を確認しながら改善に取り組む。	○できている点、できていない点が明確になっていて、次につながる。 ○前向きに明るく、そして熱心さが伝わる。 ○情報は収集するだけでなく、どのようにまとめ、管理し、何に活用するかを明確にすることが重要である。利用者の状態も日々変化するので、誰が見ても分かる状態にしておくことが必要である。 ○前回の自己評価に比べ、今回は、ほとんどの項目が改善されており、職員の努力が伺える。	○情報収集、情報共有の目的を明確にしてほしい。 ○全員が揃って情報共有することは難しいので、時期や視点を明確にすることで、業務をスリム化することも検討してほしい。 ○評価することで、次の改善計画が具体的になっている。 ○回を重ねる度に、日々職員がきめ細やかに頑張っているのがわかる。 ○地域内外に小規模多機能型事業所の存在をもっとアピールしてほしい。 ○地域との連携・協働は、毎日の仕事が大変であり、前回に比べても改善されにくい項目のように感じる。また、スキルアップも余裕のない人員の中では、難しいのではないかな。	○管理者、ケアマネジャーを中心に、利用者ごとの視点に立った主体的な情報収集、情報共有ができるよう、利用者ごとに担当を決めて取り組みを行う。 ○地域交流事業をはじめ、利用者家族交流事業等に取り組む、地域内外に小規模多機能型事業所の存在をアピールして行く。
B. 事業所のしつらえ・環境	○運営推進会議の際は、委員の皆様が施設の様子を観察いただけるよう会場や時間帯を検討する。また、その際に改善点等について説明を行い、ご意見を伺う中で更なる改善につなげていく。 ○地域の方々や運営推進会議の委員の皆様が気軽に立ち寄ることができるよう、情報発信や地域交流事業等の開催、ボランティアの募集等を行うとともに、日頃からコミュニケーションを密にし、地域の行事にも積極的に参加していく。 ○事業所が居心地のよい空間に近づけるよう、職員会議等で検証、検討を行い、ご利用者様やご家族様の意見も伺いながら、可能なことから改善をすすめていく。	○事業所内外に不快な音、臭い等もなく、そこに居て居心地のよい感じがする。 ○若いスタッフが一生懸命ケアしている姿がほほえましかった。 ○地域の一般の人は、なかなか気楽に事業所に入るといったことはないと思う。 ○事業所で行われる行事を地域にPRし、参加しやすくすることも必要なのではないか。 ○事業所内に入った雰囲気や利用者様が生き生きとされている。 ○利用者や家族の方々が居心地についてどう感じ、それをどう改善されたのかを検証するため、アンケートなどを検討してほしい。	○限られた空間の中で工夫して、より良い環境づくりに取り組んでほしい。 ○施設の中で小規模多機能型居宅介護事業所とデイサービスが隣同士という違和感が最初はありました。何回か伺ううちに、ホッとする感情を覚えました。「安心して利用できる」と、それは職員の暖かい思いやりと情報共有されている環境があると思いました。	○事業所が居心地のよい空間に近づけるよう、検証、検討を行うため、ご利用者様やご家族様からの意見、意向を確認するためのアンケート等を実施する。

<p>C. 事業所と地域のかかわり</p>	<p>○地域の方々や運営推進会議の委員の皆様が気軽に立ち寄ることができ、情報発信や地域交流事業等の開催、ボランティアの募集等を行うとともに、日頃からコミュニケーションを密にし、地域の行事にも積極的に参加していく。(再掲)</p>	<p>○ホームページや SNS では見られる人が限られるので、事業所を知ってもらう PR 方法をもっと少し検討した方がよい。 ○地域のお祭りに参加されたのは良かった。施設の歌謡ショーに地域の人が参加できたのも良かった。 ○職員の方々の熱い思いが伝わりますし、とても感じが良いと思う。地域へのアピールをもっと頑張ってもらえば良いと思う。 ○少しずつでも外部との交流ができていて良いと思う。 ○高校生のアルバイトというのも良かった。</p>	<p>○事業所が行事を行う際、計画段階から地域の方にも入ってもらおうとよいのではないかと。 ○須玉からの利用者も多くいるので、須玉の民生委員の方へも PR をしたら良いのではないかと。 ○地域の方々気軽に来所し、コミュニケーションの場となれば最高です。更に訪問介護、訪問看護サイド間の情報交流がもっと盛んになると良い。</p>	<p>○地域交流事業をはじめ、利用者家族交流事業等に取り組み、地域内外に小規模多機能型事業所の存在をアピールして行く。(再掲) ○地域の自治会、利用がある地域の民生委員等に働き掛けを行い、事業所を知ってもらうことから始める。</p>
<p>D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み</p>	<p>○運営推進会議構成員の見直しを行い、可能な限り『利用者本人が住んでいる地域の方』に参画いただけるよう依頼する。 ○地域包括支援センター等関係機関や民生委員と連携し、利用者以外のご近所の心配な方の相談等にも関わるように努める。 ○事業所の利用状況を説明する際に、「泊り」「通い」「訪問」等の一覧表を作成するなど、利用状況がみえるよう努める。</p>	<p>○外出レクなどにより、外に出ることも積極的に行っている様子が伺えました。 ○利用者が地域の行事に出ていくことは、職員の負担等もあり大変かと思うので、事業所で行う行事の PR を効果的にし、地域との交流を図ると良いのではないかと。 ○利用者ひとり一人が周りの地域の方との交流はないと思うが、事業所に関係する民生委員、地区の方々の参加は得られている。 ○利用者の地域行事やイベントへの参加については、住民の方の参加があり、地域に開かれた施設であると感じる。 ○利用者本人が住んでいる地域の方の参加について、どこまで広げていくのか検討が必要である。</p>	<p>○利用者が「地域の一員」であることを周囲の人に認識してもらえよう、本人、家族の了解を得た上で、小さなことから情報共有し、気軽に声をかけられる関係を作っていくと良いのではないかと。 ○利用者の体調、リズムに合わせた支援ができていると感じている。 ○通いや訪問など積極的に行われており、利用者の暮らしを支えている。</p>	<p>○地域の自治会、利用がある地域の民生委員等に働き掛けを行い、事業所を知ってもらうことから始める。(再掲)</p>
<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<p>○運営推進会議構成員の見直しを行い、可能な限り『利用者本人が住んでいる地域の方』に参画いただけるよう依頼する。(再掲) ○地域包括支援センター等関係機関や民生委員と連携し、利用者以外のご近所の心配な方の相談等にも関わるように努める。(再掲) ○運営推進会議等の意見、助言等への取組みについて、運営推進会議で随時報告する。</p>	<p>○利用者本人が住んでいる地域の方の参画については、施設の地元の区長だけでなく、利用者の住んでいる地区の区長の参加というも検討してほしい。</p>	<p>○運営推進会議の構成員は決められた人を招集することになりますが、施設として進んでいきたい方向性や具体的な内容がある場合は、それに関係する人を状況に応じて招集していくこともよいのではないかと。 ○会議での意見を取り入れ、少しでも改善しようとする姿勢はすばらしいと思う。 ○地域の事業所として、今の評判以上の無くてはならない、利用したくなる事業所になってほしい。</p>	<p>○運営推進会議の構成員について、利用がある地域の関係者からの参画を検討し、働きかけを行う。</p>
<p>F. 事業所の防災・災害対策</p>	<p>○策定した BCP (Business Continuity Plan)【事業継続計画】を基に、事業所としての防災訓練等を定期的に実施し、検証を行いながら、地域との協力についても確認し、職員一人一人の災害等のリスクに関する意識の向上を図る。</p>	<p>○地域の方がストレートに施設に相談に来ることは難しいと思います。まずは利用されている方から、地域とつながることのできる情報共有でき、相談につながっていくのではないかと。 ○介護支援ボランティア等の参加が得られている様子が伺えた。北杜高校のアルバイト勧誘は良い試みであると感じた。これからは引き続きアルバイトしてくれる人がいるとよいと感じる。 ○情報をどう収集するのかという点で、地域で心配されている方の事例検討は難しい。 ○策定した BCP (事業継続計画) がいざという時に行動できるものにしておく必要がある。</p>	<p>○備蓄として3日間あるとのことである。もし大きな災害があった時の受け入れ施設として期待できると強く感じた。</p>	<p>○策定した BCP (事業継続計画) に基づき、訓練や研修等を実施し、計画の点検、見直しを図り、実効性のある計画に近づける取組みを行う。</p>